

## 一、工場法

(明治四十四年三月二十八日  
法律第四十六號)

第一條 本法ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル工場ニ之ヲ適用ス

一 常時十五人以上ノ職工ヲ使用スルモノ

二 事業ノ性質危険ナルモノ又ハ衛生上有害ノ虞アルモノ

本法ノ適用ヲ必要トセサル工場ハ勅令ヲ以テ之ヲ除外スルコトヲ得

第二條 工業主ハ十二歳未満ノ者ヲシテ工場ニ於テ就業セシムルコトヲ得ス但シ本法施行ノ際十歳以上ノ者ヲ引續キ就業セシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス  
行政官廳ハ輕易ナル業務ニ付就業ニ關スル條件ヲ附シテ十歳以上ノ者ノ就業ヲ許可スルコトヲ得

第三條 工業主ハ十五歳未満ノ者及女子ヲシテ一日ニ付十二時間ヲ超エテ就業セシムルコトヲ得ス

主務大臣ハ業務ノ種類ニ依リ本法施行後十五年間ヲ限り前項ノ就業時間ヲ二時間

以内延長スルコトヲ得

就業時間ハ工場ヲ異ニスル場合ト雖前二項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ通算ス

第四條 工業主ハ十五歳未満ノ者及女子ヲシテ午後十時ヨリ午前四時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルコトヲ得ス

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ適用セス但シ本法施行十五年後ハ十四歳未満ノ者及二十歳未満ノ女子ヲシテ午後十時ヨリ午前四時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルコトヲ得ス

一 一時ニ作業ヲ爲スコトヲ必要トスル特種ノ事由アル業務ニ就カシムルトキ

二 夜間ノ作業ヲ必要トスル特種ノ事由アル業務ニ就カシムルトキ

三 晝夜連續作業ヲ必要トスル特種ノ事由アル業務ニ職工ヲ二組以上ニ分チ交替

ニ就業セシムルトキ

前項ニ掲ケタル業務ノ種類ハ主務大臣之ヲ指定ス

第六條 職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムル場合ニ於テハ本法施行後十五年

間第四條ノ規定ヲ適用セス

第七條 工業主ハ十五歳未満ノ者及女子ニ對シ毎月少クトモ二回ノ休日ヲ設ケ、職

工ヲ二組ニ分チ交替ニ午後十時ヨリ午前四時ニ至ル間ニ於テ就業セシムル場合及

第五條第一項第二號ニ該當スル場合ニ於テハ少クトモ四回ノ休日ヲ設ケ又一日ノ

就業時間カ六時間ヲ超ユルトキハ少クトモ三十分、十時間ヲ超ユルトキハ少クト

モ一時間ノ休憩時間ヲ就業時間中ニ於テ設クヘシ

職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ午後十時ヨリ午前四時ニ至ル間ニ於テ就業セシムル

トキハ十日ヲ超エサル期間毎ニ其ノ就業時ヲ轉換スヘシ

第八條 天災事變ノ爲又ハ事變ノ虞アル爲必要アル場合ニ於テハ主務大臣ハ事業ノ種類及地域ヲ限リ第三條乃至第五條ノ規定ノ適用ヲ停止スルコトヲ得

避クヘカラサル事由ニ因リ臨時必要アル場合ニ於テハ工業主ハ行政官廳ノ許可ヲ

得テ期間ヲ限リ第三條ノ規定ニ拘ラス就業時間ヲ延長シ、第四條及第五條ノ規定

ニ拘ラス職工ヲ就業セシメ又ハ前條ノ休日ヲ廢スルコトヲ得

臨時必要アル場合ニ於テハ工業主ハ其ノ部度豫メ行政官廳ニ届出テ一月ニ付七日ヲ超エサル期間就業時間ヲ二時間以内延長スルコトヲ得

季節ニ依リ繁忙ナル事業ニ付テハ工業主ハ一定ノ期間ニ付豫メ行政官廳ノ認可ヲ受ケ其ノ期間中一年ニ付百二十日ノ割合ヲ超エサル限り就業時間ヲ一時間以内延長スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ認可ヲ受ケタル期間内ハ前項ノ規定ヲ適用セス

第九條 工業主ハ十五歳未満ノ者及女子ヲシテ運轉中ノ機械若ハ動力傳導裝置ノ危険ナル部分ノ掃除、注油、検査若ハ修繕ヲ爲サシメ又ハ運轉中ノ機械若ハ動力傳導裝置ニ調帶、調索ノ取附ケ若ハ取外シヲ爲サシメ其ノ他危険ナル業務ニ就カシムルコトヲ得ス

第十條 工業主ハ十五歳未満ノ者ヲシテ毒藥、劇藥其ノ他有害料品又ハ爆發性、發火性若ハ引火性ノ料品ヲ取扱フ業務及著シク塵埃、粉末ヲ飛散シ又ハ有害瓦斯ヲ發散スル場所ニ於ケル業務其ノ他危険又ハ衛生上有害ナル場所ニ於ケル業務ニ就

カシムルコトヲ得ス

第十一條 前二條ニ掲ケタル業務ノ範圍ハ主務大臣之ヲ定ム

前條ノ規定ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ十五歳以上ノ女子ニ付之ヲ適用スルコトヲ得

第十二條 主務大臣ハ病者又ハ産婦ノ就業ニ付制限又ハ禁止ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第十三條 行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ工場及附屬建設竝設備カ危害ヲ生シ又ハ衛生、風紀其ノ他公益ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ豫防又ハ除害ノ爲必要ナル事項ヲ工業主ニ命シ必要ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ノ使用ヲ停止スルコトヲ得

第十四條 當該官吏ハ工場又ハ其ノ附屬建設物ニ臨檢スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ證票ヲ携帯スヘシ

第十五條 職工自己ノ重大ナル過失ニ依ラスシテ業務上負傷シ疾病ニ罹リ又ハ死亡

シタルトキハ工業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本人又ハ其ノ遺族ヲ扶助スヘシ

第十六條 職工徒弟、職工徒弟タラムトスル者若ハ工業主又ハ其ノ法定代理人若ハ工場管理人ハ職工徒弟又ハ職工徒弟タラムトスル者ノ戸籍ニ關シ戸籍吏ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

第十七條 職工ノ雇入、解雇、周旋ノ取締及徒弟ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 工業主ハ工場ニ付一切ノ權限ヲ有スル工場管理人ヲ選任スルコトヲ得

工業主本法施行区域内ニ居住セサルトキハ工場管理人ヲ選任スルコトヲ要ス

工場管理人ノ選任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ但シ法人ノ理事、會社ノ業務ヲ執行スル社員、會社ヲ代表スル社員、取締役、業務擔當社員其ノ他法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者及支配人ノ中ヨリ選任スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十九條 前條ノ工場管理人ハ本法及本法ニ基キテ發スル命令ノ適用ニ付テハ工業主ニ代ルモノトス但シ第十五條ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

工業主營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セサル未成年者若ハ禁治産者ナル場合又ハ法人ナル場合ニ於テ工場管理人ナキトキハ其ノ法定代理人及理事、業務ヲ執行スル社員、會社ヲ代表スル社員、取締役、業務擔當社員其ノ他法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ付亦前項ニ同シ

第二十條 第二條乃至第五條、第七條、第九條又ハ第十條ノ規定ニ違反シタル者及

第十三條ノ規定ニ依ル處分ニ從ハサル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨ケ又ハ其ノ訊問ニ對シ答辯ヲ爲サ、ル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 工業主又ハ第十九條ニ依リ工業主ニ代ル者ハ其ノ代理人、戶主、家族同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違背スル所爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ル、コトヲ得ス但シ工場ノ管理ニ付相當ノ注意ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

工業主又ハ第十九條ニ依リ工業主ニ代ル者ハ職工ノ年齢ヲ知ラサルノ故ヲ以テ本

法ノ處罰ヲ免ル、コトヲ得ス但シ工業主又ハ第十九條ニ依リ工業主ニ代ル者及取扱者ニ過失ナカリシ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 本法ニ依ル行政官廳ノ處分ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起シ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十四條 主務大臣ハ第一條ニ該當セサル工場ニシテ原動力ヲ用フルモノニ付テハ第九條、第十一條、第十三條、第十四條、第十六條及第十八條乃至第二十三條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第二十五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ハ工場管理人ニ關スル規定及罰則ヲ除クノ外官立又ハ公立ノ工場ニ之ヲ適用ス

官立工場ニ關シテハ所轄官廳ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政官廳ニ屬スル職務ヲ行フ

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

二、工場法施行令

(大正五年八月二日  
勅令第百九十三號)

第一章 通 則

第一條 左ニ掲クル事業ノミヲ營ム工場ニ付テハ工場法ノ適用ヲ除外ス但シ農商務大臣ノ定ムル原動機ヲ用キルモノハ此ノ限ニ在ラス

菓子、飴又ハ麵麩ノ製造

寒天、凍蒟蒻、凍豆腐、湯葉、麵類又ハ麩ノ製造

清酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎、酢、醬油又ハ味噌ノ製造

行李、簾、籠、和傘骨其ノ他ノ杞柳、籐、竹、籐、經木、蔓、莖又ハ藁ノ手工品ノ製造

經木眞田又ハ麥稈眞田ノ編製

「アタン」、「バナマ」又ハ之ニ類スルモノヲ以テスル帽子其ノ他ノモノ、編製扇子、團扇、和傘又ハ提燈ノ製造

紙、絲、棉、竹又ハ布帛ヲ主タル材料トスル玩具又ハ造花ノ製造  
形紙、紙函、元結又ハ水引ノ製造  
被服、足袋其ノ他ノ布帛類ノ裁縫

手工ニ依ル組紐ノ編製

刺繡、「レース」、「バテンレース」又ハ「ドローンウオーク」ノ業

第二條 鑛業法ノ適用ヲ受クル工場ニ付テハ工場法ノ適用ヲ除外ス

第三條 左ニ掲クル事業ヲ營ム工場ハ工場法第一條第一項第二號ニ該當スルモノト  
ス

毒劇物又ハ毒劇藥ノ製造

動物ノ剝製

金屬ノ熔融又ハ精煉

水銀ヲ用キル計器ノ製造

燐寸ノ製造

火藥、爆藥又ハ火工品ノ製造又ハ取扱

塗料又ハ顔料ノ製造

「エーテル」ノ製造

溶劑ヲ用キル護謨製品ノ製造

脂肪油ノ精製

溶劑ヲ用キル油脂ノ採收

「ポイル」油ノ製造

礦油ノ蒸溜又ハ精製

乾燥油又ハ溶劑ヲ用キル擬革紙布又ハ防水紙布ノ製造

亞硫酸瓦斯、塩素瓦斯又ハ水素瓦斯ヲ用キル事業

金屬、骨、角又ハ貝殻ノ乾燥研磨

硝子ノ製造、腐蝕、砂吹又ハ粉碎

織物又ハ編物ノ起毛

製棉

麻ノ梳解

其ノ他農商務大臣ノ命令ヲ以テ指定シタル事業

第二章 職工又ハ其ノ遺族ノ扶助

第四條 職工業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ工業主ハ當該職工ノ重大ナル過失ニ因ルコトヲ證明シタル場合ヲ除クノ外本章ノ規定ニ依リ扶助ヲ爲スヘシ但シ扶助ヲ受クヘキ者民法ニ依リ同一ノ原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ工業主ハ扶助金額ヨリ其ノ金額ヲ控除スルコトヲ得

前項扶助ノ義務ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外職工ノ解雇ニ因リテ變更セララル、コトナシ

第五條 職工負傷シ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ工業主ハ其ノ費用ヲ以テ療養ヲ施シ、又ハ療養ニ必要ナル費用ヲ負擔スヘシ

第六條 職工療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルニ因リ賃金ヲ受ケサルトキハ工業

主ハ職工ノ療養中一日ニ付賃金二分ノ一以上ノ扶助料ヲ支給スヘシ但シ其ノ支給引續キ三月以上ニ涉リタルトキハ其ノ後ノ支給額ヲ賃金三分ノ一迄ニ減スルコトヲ得

第七條 職工ノ負傷又ハ疾病治愈シタル時ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル程度ノ身體障害ヲ存スルトキハ工業主ハ左ニ掲クル區別ニ依リ扶助料ヲ支給スヘシ

- 一 終身自用ヲ辨スルコト能ハサルモノ 賃金百七十日分以上
- 二 終身勞務ニ服スルコト能ハサルモノ 賃金百五十日分以上
- 三 從來ノ勞務ニ服スルコト能ハサルモノ、健康舊ニ復スルコト能ハサルモノ又ハ女子ノ外貌ニ醜痕ヲ殘シタルモノ 賃金百日分以上
- 四 身體ヲ傷害シ舊ニ復スルコト能ハスト雖引續キ從來ノ勞務ニ服スルコトヲ得ルモノ 賃金三十日分以上

第八條 職工死亡シタルトキハ工業主ハ遺族ニ賃金百七十日分以上ノ遺族扶助料ヲ支給スヘシ

第九條 職工死亡シタルトキハ工業主ハ葬祭ヲ行フ遺族ニ十圓以上ノ葬祭料ヲ支給スヘシ

第十條 遺族扶助料ヲ受クヘキ者ハ職工ノ配偶者トス  
配偶者ナキ場合ニ於テ遺族扶助料ヲ受クヘキ者ハ職工死亡當時之ト同一ノ家ニ在リタル職工ノ直系卑屬又ハ直系尊屬トシ其ノ順位ハ親等ノ近キ者ヲ先ニシ卑屬ト尊屬ト親等相同シキトキハ卑屬ヲ先ニス

第十一條 前條第二項ニ定メタル同順位者ノ間ニ在リテハ其ノ順位ハ左ノ規定ニ依ル

- 一 職工ノ家督相續人又ハ戸主ハ之ヲ他ノ者ヨリ先ニス
- 二 男ハ之ヲ女ヨリ先ニス
- 三 直系卑屬ニ付テハ男又ハ女ノ間ニ在リテハ嫡出子ヲ先ニシ嫡出子、庶子及私生子ノ間ニ在リテハ嫡出子及庶子ハ女ト雖之ヲ私生子ヨリ先ニス
- 四 前二號ニ掲クル事項ニ付相同シキ者ノ間ニ在リテハ年長者ヲ先ニス

第十二條 第十條ノ規定ニ該當スル者ナキ場合ニ於テハ左ニ掲クル者ノ中一人ニ遺族扶助料ヲ支給スヘシ但シ職工ノ遺言又ハ工業主ニ對シテ爲シタル豫告ニ依リ左ニ掲クル者ノ中一人ヲ特ニ指定シタルトキハ之ニ從フヘシ

- 一 職工ノ家督相續人又ハ戸主
- 二 職工ノ兄弟姉妹ニシテ職工死亡當時之ト同一ノ家ニ在リタル者
- 三 職工ノ親族又ハ職工ト同一ノ家ニ在ル者ニシテ職工死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者

第十三條 第六條ノ規定ニ依ル扶助料ハ毎月一工以上之ヲ支給スヘシ第五條ノ規定ニ依ル費用ヲ本人ニ支給スル場合亦同シ

第十四條 第五條ノ規定ニ依リ扶助ヲ受クル職雇療養開始後三年ヲ經過スルモ負傷又ハ疾病治癒セサルトキハ工業主ハ賃金百七十日分以上ノ扶助料ヲ支給シ以後本章ノ規定ニ依ル扶助ヲ爲サルコトヲ得

第十五條 工業主ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ本章ノ規定ニ依ル扶助ヲ



爲サ、ルコトヲ得

- 一 職工ノ解雇後一年ヲ經過シテ扶助ヲ請求スルトキ但シ既ニ受ケタル扶助ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキハ此ノ限ニ在ラス解雇前ニ又ハ解雇後一年内ニ請求シタル扶助ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキ亦同シ
- 二 扶助ヲ受ケテ治癒シタル負傷又ハ疾病カ職工ノ解雇後ニ於テ再發スルトキ

第十六條 第六條乃至第八條及第十四條ノ規定ニ依ル扶助料算出ノ標準トスヘキ賃金ハ左ノ各號ノ金額トス

- 一 定額ニ依リ賃金ヲ定ムル場合ニ於テハ其ノ賃金ノ額
- 二 稼高又ハ就業時間ニ依リ賃金ヲ定ムル場合ニ於テハ疾病ニ在リテハ診斷ニ據ル發病ノ日ヲ除キ發病ノ日明ナラサルトキハ診斷前七日ヲ除キ負傷又ハ即死ニ在リテハ事故發生ノ日ヲ除キ其ノ前就業三十日分ノ賃金ノ平均額但シ就業三十日ニ滿タサルトキハ其ノ賃金ノ平均額トス

三 前二號ノ規定ニ依リテ金額ヲ算出スルコトヲ得サル場合ニ於テハ扶助規則ニ於テ定ムル金額但シ扶助規則ニ定ナキトキハ地方長官之ヲ定ム

第十七條 前條第一號又ハ第二號ノ規定ニ依リ金額ヲ算出スル場合ニ於テ工業主カ食事其ノ他ノ給與ヲ支給スルトキハ其ノ價額ハ之ヲ金額中ニ加算ス

第十八條 地方長官ハ職權ヲ以テ又ハ申請ニ因リ職工ノ負傷、疾病若ハ死亡ノ原因第七條各號ニ掲クル身體障害ノ程度其ノ他扶助ニ關スル事項ニ付之ヲ審査シ及事件ノ調停ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ醫師ヲシテ診斷又ハ檢案セシムルコトヲ得

第十九條 工業主ハ扶助規則ヲ作成シ扶助ノ金額、手續其ノ他扶助ニ關シ必要ナル事項ヲ定メ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ扶助規則ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

地方長官必要ト認ムルトキハ扶助規則ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第二十條 官立工場ニ於ケル扶助ニ付テハ別ニ定ムル規程ニ依ル

### 第三章 職工ノ雇入、解雇及周旋

第二十一條 工業主ハ職工名簿ヲ調製シ工場毎ニ之ヲ備付クヘシ

職工名簿ニ記載スヘキ事項ニ關シテハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二十二條 職工ニ給與スル賃金ハ通貨ヲ以テ毎月一回以上之ヲ支拂フヘシ

第二十三條 工業主ハ職工ノ死亡若ハ解雇ノ場合又ハ農商務大臣ノ定ムル場合ニ於テ權利者ノ請求アリタルトキハ遲滞ナク賃金ヲ支拂フヘシ

前項ノ場合ニ於テ積立金、信認金其ノ他何等ノ名義ヲ用キルニ拘ラス職工ノ貯蓄金ハ遲滞ナク之ヲ返還スヘシ

第二十四條 工業主ハ職工ノ雇人ニ關シ前二條ノ規定ニ違反スル契約又ハ工業主ノ受クヘキ違約金ヲ定メ若ハ損害賠償額ヲ豫定スル契約ヲ爲スコトヲ得ス但シ左ノ事項ニ付豫メ方法ヲ定メ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 職工ニ貯蓄ヲ爲サシメ又ハ職工ノ利益ノ爲賃金ノ一部ニ代ヘ他ノ給付ヲ爲スコト

二 職工カ雇入契約ニ違反シ其ノ他職工ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ解雇セララル、

場合ニ於テ職工ノ貯蓄金中工業主ノ給與ニ係ル部分ヲ交付セサルコト

第二十五條 職工ノ貯蓄金ヲ管理スル場合ニ於テハ工業主ハ豫メ確實ナル方法ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第二十六條 尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル學齡兒童ヲ雇備スル場合ニ於テハ工業主ハ就學ニ關シ必要ナル事項ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第二十七條 未成年者若ハ女子カ工業主ノ都合ニ依リ解雇セラレ又ハ第五條若ハ第六條ノ規定ニ依リ扶助ヲ受クル職工若ハ第七條第一號第二號ニ該當スル職工解雇セラレ解雇ノ日ヨリ十五日内ニ歸郷スル場合ニ於テハ工業主ハ其ノ必要ナル旅費ヲ負擔スヘシ第十四條ノ規定ニ依リ扶助ヲ廢止セラレタル者廢止ノ日ヨリ十五日内ニ歸郷スル場合亦同シ

第十八條ノ規定ハ前項ノ旅費ニ關シ之ヲ準用ス

#### 第四章 徒弟

第二十八條 工場ニ收容スル徒弟ハ左ノ各號ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

- 一 一定ノ工業ニ必要ナル知識技能ヲ習得スルノ目的ヲ以テ業務ニ就クコト
- 二 一定ノ指導者指揮監督ノ下ニ教習ヲ受クルコト
- 三 品性ノ修養ニ關シ當時一定ノ監督ヲ受クルコト
- 四 地方長官ノ認可ヲ受ケタル規程ニ依リ收容セラル、コト

第二十九條 工業主前條第四號ノ認可ヲ申請スルニハ左ノ事項ヲ具備スヘシ

- 一 徒弟ノ員數
- 二 徒弟ノ年齡
- 三 指導者ノ資格
- 四 教習ノ事項及期間
- 五 就業ノ方法及一日ニ於ケル就業ノ時間
- 六 休日及休憩ニ關スル事項
- 七 品性修養ニ關スル監督ノ方法
- 八 給與ノ方法

九 第三十條ノ規定ニ依リ設クル規程

・ 十 徒弟契約ノ條項

第三十條 徒弟未成年者又ハ女子ナル場合ニ於テハ其ノ就業ニ付十五歳未満ノ者又ハ女子ニ關スル工場法ノ規定ニ準據シテ危險ヲ避ケ及衛生上ノ害ヲ防クノ方法ヲ定ムヘシ

第二十六條及之ニ關スル罰則ハ徒弟ノ收容ニ之ヲ準用ス

第三十一條 地方長官ハ工業主ニ於テ第二十八條第四號ノ規程ニ遵ハス又ハ徒弟教習ノ目的ヲ完クスルコト能ハスト認ムルトキハ之ヲ矯正スル爲必要ナル事項ヲ命シ又ハ第二十八條第四號ノ認可ヲ取消スコトヲ得

第三十二條 第二十八條ノ條件ヲ具備セサル者ニ對シテハ工業主ニ於テ徒弟ノ名義ヲ用キルニ拘ラス職工ニ關スル工場法及本令ノ規定ヲ適用ス第二十八條第四號ノ認可ヲ取消サレタルトキ從來ノ徒弟ニ付亦同シ

## 第五章 罰 則

第三十三條 工業主左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 地方長官ノ爲シタル扶助規則變更ノ命令ニ違反シタルトキ
- 二 職工ノ雇入ニ付詐術ヲ用キタルトキ
- 三 第二十四條ニ違反シ又ハ同條但書ノ規定ニ依ル許可ノ條件ニ違反シタルトキ
- 四 不正ニ扶助義務ノ全部若ハ一部ヲ免レムトスルノ所爲ヲ爲シタルトキ
- 五 不正ニ貸金支拂ノ義務、職工ノ貯蓄金返還ノ義務又ハ第二十七條第一項ノ規定ニ依ル義務ノ全部又ハ一部ヲ免レ又ハ免レムトスルノ所爲ヲ爲シタルトキ
- 六 第二十五條ノ認可ヲ受ケス又ハ認可ヲ受ケタル方法ニ依ラスシテ職工ノ貯蓄ヲ管理シタルトキ
- 七 第二十六條ノ認可ヲ受ケスシテ尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル學齡兒童ヲ雇傭シタルトキ
- 八 第二十八條第四號ノ規程又ハ第三十一條ノ規定ニ依ル地方長官ノ命令ニ違反シタルトキ

工業主ノ爲ニスル職工ノ雇入ニ付詐術ヲ用キタル者又ハ工業主ヲシテ不正ニ前項第四號若ハ第五號ニ掲クル義務ノ全部若ハ一部ヲ免レシメ若免レシメムトスルノ所爲ヲ爲シタル者ハ罰前項ニ同シ但シ其ノ者ノ所爲ニ付工場法第二十二條ノ規定ニ依リ工業主又ハ之ニ代ル者ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第三十四條 職工ノ周旋ニ付詐術ヲ用キタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十五條 工業主左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

- 一 職工名簿ノ調製又ハ備付ヲ怠リタルトキ
- 二 扶助規則ノ作成若ハ届出ヲ怠リタルトキ
- 三 通貨ニ非ラサルモノヲ以テ賃金ヲ支拂ヒタルトキ

第三十六條 本令ニ規定スル所爲カ同時ニ刑法其ノ他ノ法令ノ罰則ノ規定ニ觸ル、爲其ノ所爲ヲ爲シタル工業主又ハ之ニ代ル者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニ對シ刑法其ノ他ノ法令ヲ適用スル場合ニ於テモ工業主又ハ之ニ代ル者ニ對シ本令ヲ適用スルコトヲ妨ケス

附 則

第三十七條 本令ハ大正五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十八條 第二十四條ノ規定ハ本令施行後一年間本令施行前ノ契約ニ之ヲ適用セ  
ス

賃金ノ支拂期ニ關シ第二十二條ノ規定ニ異ル慣習アルトキハ工業主ハ地方長官ノ  
許可ヲ受ケ本令施行後三年内其ノ慣習ニ依ル支拂期ヲ延長セサル限度ニ於テ支拂  
期ヲ定ムルノ契約ヲ爲スコトヲ得

第三十九條 本令施行ノ際工場法ノ適用ヲ受クル工業主ハ本令施行ノ日ヨリ四月内  
ハ第十九條、第二十一條、第二十二條、第二十五條及第二十六條ノ規定ニ依ラサ  
ルコトヲ得

本令施行ノ際職工ノ貯蓄金ヲ管理シ又ハ尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル學齡兒童  
ヲ雇備シ若ハ徒弟トシテ收容スル工業主前項ノ期間内ニ第二十五條、第二十六條  
又ハ第三十條第二項ノ規定ニ依ル認可ヲ申請シタルトキハ之ニ對スル行政處分ア

ル迄仍従前ノ例ニ依ルコトヲ得

前項ノ規定ハ前條第二項ノ許可ノ申請ニ付之ヲ準用ス

第四十條 現行ノ命令ハ工場法又ハ本令ニ牴觸セサル限り本令施行ノ爲其ノ効力ヲ  
妨ケラル、コトナシ

第四十一條 本令ニ定ムルモノ、外主務大臣及地方長官ハ職工ノ雇人、解雇、周旋  
ノ取締其ノ他本令施行ノ爲必要ナル事項ニ關シ命令ヲ發スルコトヲ得

第四十二條 本令中地方長官トアルハ東京府ニ於テハ警視總監トス

### 三、工場法施行規則

(大正五年八月三日  
農商務省令第十九號)

第一條 工場法施行令第一條ノ規定ニ依ル原動機ハ蒸汽機關、蒸汽タービン、瓦斯機關、石油機關、タービン水車、ベルトン水車及電動機トス

第二條 工場法第二條第二項ノ規定ニ依ル許可ノ申請ハ地方長官ニ之ヲ爲スヘシ同法第八條ノ規定ニ依ル許可若ハ認可ノ申請又ハ届出ニ付亦同シ

第三條 器械生絲製造ノ業務及地方長官ノ告知シタル工場ニ於ケル輸出絹織物ノ業務ニ付テハ工業主ハ十五歳未満ノ者及女子ノ一日ノ就業時間ヲ工場法施行後五年間ハ十四時間迄其ノ後十年間ハ十三時間迄延長スルコトヲ得

織物及編物ノ業務ニ付テハ工業主ハ十五歳未満ノ者及女子ノ一日ノ就業時間ヲ工場法施行後二年間ハ十四時間迄延長スルコトヲ得

第四條 工場法第五條第一項ニ掲クル業務ノ種類左ノ如シ

- 一 魚介ノ罐詰、罐詰、鹽藏、燻製、煮乾其ノ他ノ腐敗又ハ變質ヲ防止スルニ必

#### 要ナル業務

果實ノ罐詰又ハ果實酒ノ醸造ニ關スル業務

- 二 新聞紙ノ印刷ニ關スル業務

第五條 工場法第九條ニ掲クル業務ノ範圍左ノ如シ

- 一 原動機、電氣機械其ノ他ノ機械又ハ動力傳導裝置ニ附屬スル勢輪、曲柄、クランク、連桿、コネクティングロッド、聯桿器、クロスヘッド、唧子桿、ピストンロッド、發電機ノ「コンミューター」、轉子、銳利ナル刃物、齒輪、調帶車、車軸、カワプライン、車軸接手又ハ之ニ準スヘキ危険ナル部分ヲ其ノ運轉中ニ掃除、注油、検査又ハ修繕スル業務
- 二、危険ナル方法ニ依リ運轉中ノ機械又ハ動力傳導裝置ニ調帶、調索ノ取附ケ又ハ取外シヲ爲ス業務

- 三、汽罐ノ焚火、給水弁、阻汽弁ノ開閉又ハ安全弁ノ取扱
- 四、發電機、電動機、發電機ノ抵抗器若ハ變壓器ノ取扱又ハ高壓電線ノ接續
- 五、鋸機ニ木材ヲ送給スル業務

- 六 危険ナル齒輪、調帶車、勢輪、調帶、調索ニシテ完全ナル柵圍其ノ他危害豫防装置ナキモノ又ハ之ニ準スヘキモノニ接近シテ行フ業務
- 七、完全ナル柵圍其ノ他ノ危害豫防装置ナキ車軸道、足場其ノ他之ニ準スヘキ場所ニ於ル業務

第六條 工場法第十條ニ掲クル業務ノ範圍左ノ如シ

- 一、砒素若ハ水銀又ハ其ノ化合物、黃磷、硫化磷、チアン水素酸、「チアンカリウム」、フルオール水素酸、硫酸、硝酸、鹽酸、苛性ナトロン、石炭酸其ノ他之ニ準スヘキ毒劇性料品ヲ取扱フ業務
- 二、「カリウム」、「ナトリウム」、過酸化ナトリウム、「エーテル」、石油ベンゼン、「アルコール」、「二硫化炭素其ノ他之ニ準スヘキ發火性又ハ引火性ノ料品ヲ取扱フ業務
- 三、火藥、爆藥又ハ火工品ヲ取扱フ場所ニ於ケル業務
- 四、金屬、鑛物、土石、骨、角、襪襪、獸毛、棉、麻、藁等ノ塵埃、粉末ヲ著シ

ク飛散スル場所ニ於ケル業務

- 五 砒素、水銀、黃磷、鉛、チアン水素酸、「フルオール」、「アニリン」、「クロム」若ハ「クロール」又ハ其ノ化合物其ノ他之ニ準スヘキ有害料品ノ粉塵、蒸氣若ハ瓦斯又ハ酸性瓦斯ヲ發散スル場所ニ於ケル業務
- 六 多量ノ高熱物體ヲ取扱フ業務又ハ金屬、鑛物、土石類ノ熔融若ハ煨燒ヲ爲ス高熱ノ場所、高熱ノ乾燥室其ノ他之ニ準スヘキ場所ニ於ケル業務

第七條 工場法第十條ノ規定ハ前條第五號及第六號ニ掲クル業務ニ關シ十五歳以上ノ女子ニ付之ヲ適用ス

第八條 工業主ハ左ニ掲クル疾病ニ罹レル者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス但シ第四號又ハ第五號ニ掲クル疾病ニ罹レル者ニ付傳染豫防ノ處置ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

- 一 精神病
- 二 癩、肺結核、喉頭結核

三 丹毒、再歸熱、麻疹、流行性腦脊髓膜炎其ノ他之ニ準スヘキ急性熱性病

四 微毒、疥癬其ノ他傳染性皮膚病

五 膿漏性結膜炎、トラホーム(著シク傳染ノ虞アルモノ)其ノ他之ニ準スヘキ傳染性眼病

工業主ハ肋膜炎、心臟病、脚氣、關節炎、腱鞘炎、急性泌尿生殖器病其ノ他ノ疾病ニ罹レル者ニシテ就業ノ爲病症増悪ノ虞アル場合ハ之ヲ就業セシムルコトヲ得ス

工業主ハ傳染病又ハ重大ナル疾病ニ罹レル者ニシテ症候消失シタル後ト雖健康ノ回復セサル場合ハ之ヲ就業セシムルコトヲ得ス但シ醫師ノ意見ヲ徵シ支障ナシト認ムル業務ニ就カシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九條 工業主ハ産後五週日ヲ經過セサル者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス但シ産後三週日ヲ經過シタル後醫師ノ意見ヲ徵シ支障ナシト認ムル業務ニ就カシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十條 地方長官ハ前二條ニ掲クル場合ノ外工業主ニ對シ病者又ハ産婦ノ就業ノ制限又ハ禁止ヲ命スルコトヲ得

第十一條 工場法第十四條ノ規定ニ依ル證票ハ様式第一號ニ依ル

第十二條 工業主ハ就業時間、休憩及休日ニ關スル事項ヲ工場内ノ見易キ場所ニ掲示スヘシ

第十三條 工業主ハ扶助ニ關スル事項ノ要領ヲ平易ニ記述シ適宜ノ方法ヲ以テ之ヲ職工ニ周知セシムヘシ

第十四條 職工就業中又ハ工場及附屬建設物内ニ於テ負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ工業主ハ遅滞ナク醫師ヲシテ診断又ハ檢案ヲ爲サシムヘシ

第十五條 工場法施行令第十六條第一號ノ定額又ハ第十七條ノ給與ノ算出方法ニ關シ契約又ハ慣習ナキ場合ニ於テ年ヲ以テ定メタルトキハ三百六十分シ月ヲ以テ定メタルトキハ三十分シテ一日ノ賃金又ハ給與ヲ定ム

第十六條 職工名簿ノ記載ハ様式第二號ノ定ムル所ニ依ルヘシ



第十七條 職工名簿ノ用紙ハ職工ノ死亡又ハ解雇後五年間之ヲ保存スヘシ

第十八條 工業主カ其ノ職工ニ付工場間ニ又ハ工場ト工場外トノ間ニ所屬ノ移動ヲ行ヒタル場合ニ於テハ職工名簿ノ記載ニ付雇入又ハ解雇アリタルモノト看做ス

第十九條 職工ノ雇入及扶助ニ關スル書類ハ工場毎ニ之ヲ備置クヘシ

前項ノ雇入ニ關スル書類ハ職工ノ解雇又ハ死亡ノ日ヨリ三年間、扶助ニ關スル書類ハ扶助ヲ終リタル日ヨリ三年間之ヲ保存スヘシ

第二十條 工場法施行令第二十三條ノ規定ニ依リ工業主カ賃金ヲ支拂ヒ又ハ職工ノ貯蓄金ヲ返還スヘキ場合左ノ如シ

一 職工カ一月以上ニ涉リテ歸郷スルトキ

二 職工カ婚禮又ハ葬儀ヲ行フ費用ニ充ツルトキ

三 其ノ他地方長官ノ命令ヲ以テ定メタル場合

第二十一條 工業主工場管理人選任ノ認可ヲ申請セムトスルトキハ申請書ニ其ノ履歷書ヲ添ヘ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第二十二條 工業主ハ左ノ場合ニ於テハ遲滞ナク地方長官ニ届出ツヘシ

一 工場法第十八條第三項但書ニ依リ工場管理人ヲ選任シタルトキ

二 工場管理人死亡シ又ハ之ヲ解任シタルトキ

三 第十七條又ハ第十九條第二項ノ規定ニ依リ保存スヘキ書類ヲ滅失又ハ毀損シタルトキ

第二十三條 工業主扶助規則ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事項ヲ一月前ニ地方長官ニ届出ツヘシ

第二十四條 常時五十人以上ノ職工ヲ使用スル工場ニ於ケル職工ノ疾病、負傷又ハ死亡ニ付テハ工業主ハ様式第三號ノ定ムル所ニ依リ毎月取纏メ翌月二十日迄ニ地方長官ニ届出ツヘシ

第二十五條 第八條、第九條、第十二條乃至第十四條、第十六條、第十七條又ハ第十九條ノ規定ニ違反シタル者、第十條ノ規定ニ依ル處分ニ從ハサル者及工場名簿ノ記載ヲ怠リ又ハ之ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十六條 第二十二條乃至第二十四條ノ届出ヲ怠リ又ハ其ノ届書ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十七條 本則ニ規定スル所爲カ同時ニ刑法其ノ他ノ法令ノ罰則ノ規定ニ觸ル、爲其ノ所爲ヲ爲シタル工業主又ハ之ニ代ル者ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニ對シ刑法其ノ法令ヲ適用スル場合ニ於テモ工業主又ハ之ニ代ル者ニ對シ本則ヲ適用スルコトヲ妨ケス

附 則

第二十八條 本則ハ大正五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十九條 本則施行ノ際工場法ノ適用ヲ受クル工場ノ工業主ハ本則施行ノ日ヨリ

四月内ハ第十二條、第十三條及第二十四條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第三十條 工場法施行ノ際十歳以上十二歳未滿ノ者ヲ引續キ就業セシムル工業主ハ大正五年九月三十日迄ニ其ノ氏名、男女別、生年月日及雇入年月ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

前項ノ届出ヲ怠リタル者又ハ其ノ届書ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十一條 本則中地方長官トアルハ東京府ニ於テハ警視總監トス

(様式第一號)

|   |   |    |   |   |   |    |
|---|---|----|---|---|---|----|
| 第   | 號 | 大正 | 年 | 月 | 日 | 交附 |
| 官 職 氏 名<br><small>農商務省又ハ廳府縣印</small>  |   |    |   |   |   |    |
| <small>工場法第十四條 當該官吏ハ工場又ハ其ノ附屬建設物ニ臨檢スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ證票ヲ携帯スヘシ<br/>工場法第二十一條 正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨ケ又ハ其ノ訊問ニ對シ答辯ヲ爲サル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス</small> |   |    |   |   |   |    |

豎二寸五分横三寸中  
央點線ノ所ヨリ二ツ  
折ト爲シ表面ニ「工  
場臨檢票」ト記ス

(様式第二號)

| 雑 | 解雇 | 入雇 | 履歴 | 住所 | 女        | 男  |
|---|----|----|----|----|----------|----|
|   |    |    |    |    | 生年<br>月日 | 名氏 |
|   |    |    |    |    | 籍 本      |    |
|   |    |    |    |    |          |    |

職工名簿記載心得

- 一 職工名簿ハ職工毎ニ少クトモ用紙一枚ヲ備ヘ其ノ體裁ハカード式其ノ他ノ方式ニ依リ工業主ノ便宜ニ從ヒ之ヲ定ムヘシ
- 二 工業主ノ都合ニ依リ本様式各欄ノ間隔ヲ伸縮シ、各欄内ニ別ニ欄ヲ設ケ又ハ各欄以外ノ欄ヲ設クルコトヲ妨ケス  
各欄ノ位置ハ本様式ニ掲クル順序ニ依ルヘシ但シ本則施行ノ際使用スル職工名簿ニ付テハ新名簿調製ニ至ル迄ノ間從前ノ順序ニ依ルコトヲ得
- 三 職工名簿ハ職工ノ業務別、男女別又ハ女工及十五歳未満ノ男工ト其ノ他ノ職工トヲ區別スル等便宜ニ從ヒ各別ニ之ヲ調製スルコトヲ妨ケス
- 四 履歴欄ニハ職工ノ學業及業務上ノ概略ヲ記載スヘシ
- 五 雇人欄ニハ雇入又ハ雇入更新ノ年月日、雇入期間ノ定アルモノハ其ノ期間其ノ他雇入ニ關シ重要ナル事項ヲ記載スヘシ
- 六 解雇欄ニハ解雇ノ年月日、事由其ノ他解雇ニ關シ重要ナル事項ヲ記載スヘシ

シ

職工死亡シタルトキハ本欄ニ其年月日、死亡ノ原因、死亡ニ至ル迄ノ經過ヲ記載スヘシ

七 雜欄ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

イ 女子及十五歳未滿ノ男工カ同一日ニ於テ他工場ニ就業スル場合ニ於テハ他工場ニ於ケル就業時間(工場法第三條第三項)

ロ 職工カ遺族扶助料ヲ受クヘキ者ヲ豫告シタルトキハ其ノ氏名、住所、職工トノ關係及豫告ノ年月日(工場法施行令第十二條但書)

尚本欄ニハ工業主ニ於テ必要ト認ムル雜件ヲ記載スルモノトス

八 各票作成ノ當務者ハ雜欄其ノ他便宜ノ場所ニ作成ノ年月日ヲ記載シ署名又ハ捺印スヘシ

(様式第三號)

大正 年 月 分 職工負傷疾病月報

| 氏名 | 生年 | 業務別<br>男女別 | 休業<br>日數 | 病名又<br>負傷ノ種類 | 又發病又<br>負傷ノ日附 | 治癒<br>ノ日 | 死亡<br>ノ日 | 解雇<br>ノ日 | 未治癒ノ爲<br>翌月へ繰越 | 工場内 |    | 職工總數 |
|----|----|------------|----------|--------------|---------------|----------|----------|----------|----------------|-----|----|------|
|    |    |            |          |              |               |          |          |          |                | 名   | 譯  |      |
|    |    |            |          |              |               |          |          |          |                | 男工  | 女工 |      |
|    |    |            |          |              |               |          |          |          |                |     |    | ○    |
|    |    |            |          |              |               |          |          |          |                |     |    | ○    |
|    |    |            |          |              |               |          |          |          |                |     |    | ○    |
|    |    |            |          |              |               |          |          |          |                |     |    | ○    |

職工負傷疾病月報記載心得

- 一 本月報用紙ノ一頁ハ半紙半折大トス
- 二 本月報ニハ業務上ト否トヲ問ハス負傷又ハ疾病ノ爲引續キ三日又ハ夫レ以上休業シタル者ニ限り記載スヘシ但シ死亡シタル者ニ付テハ休業三日ニ滿タサルトキト雖之ヲ記載スヘシ
- 三 同一職工ニ付同一月内ニ二回以上月報ニ記載スヘキ事由ヲ生シタルトキハ各別ニ記載スヘシ
- 三 負傷及疾病ハ各別ニ取纏メテ記載スヘシ負傷ト疾病ト用紙ヲ別ニスルモ妨ナシ
- 四 職工總數欄ニハ其ノ月ノ末日ニ使用スル職工ノ總數ヲ記載スヘシ
- 五 業務別男女欄ニハ例ヘハ紡績工場ニ於テハ混棉部男工、精紡部女工、製紙工場ニ於テハ紙料部男工、織布工場ニ於テハ整經部女工等ニ準シ記載スヘシ

- 六 休業日數欄ニハ其ノ月ニ於ケル休業日數ヲ記載スヘシ  
月末ノ休業日數カ三日ニ滿タサルモ翌月ノ分ヲ合算シテ三日又ハ夫レ以上トナリタル場合ニ於テハ之ヲ通算シテ翌月ノ月報ニ記載スヘシ  
未治癒ノ爲翌月ヘ繰越欄ニ記載シタルモノニシテ翌月ニ入り治癒シタルトキハ翌月ニ於ケル休業三日ニ滿タスト雖仍之ヲ翌月ノ月報ニ記載スヘシ
- 七 病名又ハ負傷ノ種類、發病又ハ負傷ノ日附判明セサルトキハ「不明」ト記載スヘシ
- 八 結末欄ニ於テハ其ノ月内ニ治癒シタル者ハ治癒ノ日附、其ノ月内ニ死亡シ又ハ治癒ニ至ラスシテ解雇シタル者ハ死亡又ハ解雇ノ日附ヲ記載シ其ノ月内ニ治癒セサル者ニ付テハ未治癒ノ爲翌月ヘ繰越欄ニ〇印ヲ附スヘシ

### 四、工場法第二條第二項ニ依ル就業許可ニ關スル件

農商務省訓令第十號

廳府縣(東京府ヲ除ク)

工場法第二條第二項ニ依リ十歳以上十二歳未満ノ者ノ就業ヲ許可スル場合ノ取扱方左ノ通心得ヘシ

大正五年八月三日

農商務大臣 河野 廣 中

第一條 輕易ナル業務ノ範圍左ノ如シ

- 一 菓子、卷煙草、黃燐ヲ使用セサル燐寸(黃燐ヲ使用スル燐寸ニ付テハ工場法施行後二年間ヲ限リ之ヲ輕易ナル業務トシテ取扱フコトヲ妨ケス)、刷子又ハ鈕釦ノ製造工場ニ於ケル函詰、綴附、包裝又ハ標紙ノ貼付
- 二、紙函又ハ燐寸函製造工場ニ於ケル函貼
- 三 印刷、製本又ハ製紙工場ニ於ケル紙ノ折疊又ハ帶封掛

四 生絲製造工場ニ於ケル屑物ノ處理

五 織物工場ニ於ケル箆通、綜統通、絲ノ手繰又ハ管卷

第二條 地方ノ狀況ニ依リ前條ニ掲クルモノ以外ノ業務ニ付就業ヲ許可セムトスルトキハ其ノ業務ニ付豫メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 許可ニハ少クトモ左ノ條件ヲ附スヘシ

- 一 一日ノ就業時間ハ六時間ヲ超エサルコト
- 二 一日ノ就業時間カ三時間ヲ超エルトキハ就業時間中ニ三十分以上ノ休憩時間ヲ設クルコト
- 三 毎月四回以上ノ休日ヲ設クルコト

## 工場法令施行細則

(新潟縣令第二十八號)  
大正五年九月一日

第一條 工場法第二條第二項ノ規定ニ依ル許可ノ申請書ニハ左ノ各號ヲ記載シ第一號ノ事項ニ關スル市町村長ノ證明書ヲ添付スヘシ

一 職工ノ原籍、身分、氏名、生年月日

二 業務ノ種類

三 就業時間

四 休憩時間及休日

第二條 工場法第五條第二號ノ規定ニ依リ十五歳未滿ノ者及女子ヲシテ新聞紙ノ印刷ニ關スル業務ニ就カシムル場合及同第六條ノ規定ニ依リ職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムル場合ハ左ノ各號ヲ具シ知事ニ届出ツヘシ

一 就業職工ノ員數及男女ノ別

二 始業時間

三 終業時間

四 休憩時間及休日

五 就業轉換期

第三條 工場法第八條ノ規定ニ依ル許可若ハ認可ノ申請又ハ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 事業ノ種類

二 臨時必要アル事由

三 期間

四 就業時間及就業轉換期

五 休憩時間及休日

第四條 工場管理人選任ノ認可申請書ニハ工場法施行規則第二十二條ニ規定スル履歷書ノ外工場法第十八條ニ依ル權限ニ委任シ同法第十九條ニ依ル責任ヲ負フヘキコトヲ承諾スル旨ヲ明記セル選任契約書寫ヲ添付スヘシ工場法施行規則第二十二

條第一號ニ依ル届出ノ場合亦同シ

第五條 左記各號ノ一ニ該當スル者ハ工場管理人タルコトヲ得ス

一 未成年者、禁治産者、準禁治産者

二 家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復権ノ決定確定スル

ニ至ル迄ノ者

三 工場管理人選任ノ認可ヲ取消サレタル日ヨリ滿二箇年ヲ經過セサル者

四 禁錮以上ノ刑ニ處セラレ刑ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル日ヨリ滿三箇

年ヲ經過セサル者

第六條 工場管理人ニシテ不適任ト認ムルトキハ既ニ與ヘタル認可ヲ取消スコトア

ルヘシ

第七條 工場主職工ヲ扶助シタルトキハ其ノ都度遲滯ナク左ノ事項ヲ記載シ知事ニ

届出ツヘシ

一 病名又ハ負傷ノ程度

二 發病、負傷又ハ死亡ノ月日時

三 扶助ノ狀況及方法等

四 醫師ノ診斷書、檢案書又ハ死亡證書

第八條 工場法、工場法施行令、工場法施行規則及本則ニ依リ知事ニ提出スル願届

書ハ總テ工場所在地所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第九條 本則第二條第七條ニ違反シタル者ハ五拾圓以内ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附 則

第十條 現行ノ命令ハ工場法、同施行令、同施行規則及本則ニ牴觸セサル限り其ノ

効力ヲ妨ケラル、コトナシ

第十一條 本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



# 工業労働法

## 農商務省成案全文

第一條 本法ニ於テ工業ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スル事業ヲ謂フ

一、鑛業、砂鑛業、石切業其ノ他主務大臣ノ指定スル鑛物採取業

二、製造、加工、選別、包装又ハ解體ヲ爲ス事業及電氣又ハ動力ノ發生、變壓又ハ傳導ヲ爲ス事業

三、土木建設其ノ他ノ工事

四、道路、鐵道、軌道、海路又ハ内地水路ニ依ル運送但シ主トシテ人力ニ依ルモノヲ除ク

五、船著場又ハ倉庫ニ於ケル積卸前項ニ掲ケタル事業中本法ノ適用ニ付工業ト看做サ、ルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 工業主ハ十四歳未滿ノ者ヲシテ工業ニ就業セシムルコトヲ得ス但シ十二歳

以上ノ者ニシテ尋常小學校ノ教科ヲ修了シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三條 工業主ハ從業者ヲシテ一日ニ付九時間半一週ニ付五十七時間ヲ超エテ就業セシムルコトヲ得ス但シ生絲製造業ニ在リテハ一日ニ付十時間一週ニ付六十時間就業セシムルコトヲ得

工業主ハ十六歳未滿ノ者及第一條第一項第一號ニ掲ケタル事業ノ從業者ニシテ坑内ニ於テ就業スルモノヲシテ一日ニ付八時間一週ニ付四十八時間ヲ超エテ就業セシムルコトヲ得ス

第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ前條ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

一、從業者ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムルトキ此ノ場合ニ於テハ三週間ヲ越エサル一期間ノ就業時間ハ之ヲ一週ニ平均シテ前條ニ定メタル就業時間ヲ超ユルコトヲ得ス

二、性質上連續工程ヲ必要トスル業務ニ從業者ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムルトキ此ノ場合ニ於テハ三週間ヲ超エサル一期間ノ就業時間ハ之ヲ一週ニ

平均シテ前條ニ定メタル一日ノ就業時間ノ七倍ヲ超ユルコトヲ得ス

前項第二項ニ掲ケタル業務ノ種類ハ主務大臣之ヲ指定ス

第五條 慣習又ハ工業主團體及從業者團體間ノ協定ニ依リ一週中ノ一日又ハ數日ノ就業時間ヲ第三條ノ就業時間以下ト爲シタルトキハ行政官廳ノ許可又ハ當該團體間ノ協定ニ依リ其ノ週間ニ於ケル他ノ日ノ就業時間ヲ一日ニ付一時間以内延長スルコトヲ得但シ當該週間ノ就業時間ハ第三條ニ定メタル一週間ノ就業時間ヲ超ユルコトヲ得ス

工業主又ハ從業者ニシテ其ノ團體ヲ組織セサルモノニ在リテハ其ノ代表者前項ノ協定ヲ爲スコトヲ得

第六條 第三條ノ規定ニ依ルコトヲ得サル特殊ノ事由アル場合ニ於テハ工業主團體及從業者團體間ノ協定ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ得テ同條ノ規定ニ異リタル就業時間ノ定ヲ爲スコトヲ得但シ協定中ニ定メタル一期間ノ就業時間ハ之ヲ一週ニ平均シテ同條ニ定メタル一週ノ就業時間ヲ超ユルコトヲ得ス

第七條 工業主ハ命令ノ定ムル所ニ依リ左ノ各號ノ一ニ該當スル業務ノ從業者ヲシ

テ前四條ニ規定ニ依ル就業時間ヲ超エテ就業セシムルコトヲ得

- 一、一般作業ノ準備又ハ殘務處理ノ業務
- 二、性質上間歇的ニ作業ヲ爲ス業務

第八條 季節ノ關係其ノ他ノ事由ニ因リ業務繁忙ナル場合ニ於テハ工業主ハ命令ノ定ムル所ニ依リ從業者ヲシテ前五條ノ規定ニ依ル就業時間ヲ超エテ就業セシムルコトヲ得

前項ノ超過時間ニ對スル賃金ノ增加率ハ普通賃金率ノ百分ノ二十五ヲ下ルコトヲ得ス

第九條 工業主ハ前五條ノ規定ニ拘ラス一日ニ付十六歳未満ノ者ヲシテ九時間女子ヲシテ十一時間ヲ超エテ就業セシムルコトヲ得ス

第十條 始業ヨリ終業迄ノ時間ハ休憩時間ヲ合算シテ前七條ノ規定ニ依ル就業時間ヨリ二時間ヲ超ユルコトヲ得ス

坑内ニ於テ就業スル者ニ付テハ坑口ニ入りタル時ヲ以テ始業ノ時坑口ヲ出テタル時ヲ以テ終業ノ時ト看做ス但シ特殊ノ事由アル場合ニ於テハ工業主ハ行政官廳ノ許可ヲ得テ他ノ時ヲ以テ始業又ハ終業ノ時ト爲スコトヲ得

第十一條 工業主ハ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ午後十時ヨリ午前五時ニ至ル時間ヲ含ム十一時間ノ繼續時間内就業セシムルコトヲ得ス

第十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ前條ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

一、急速ニ腐敗シ又ハ變質スルノ虞アル原料又ハ材料ヲ使用スル爲一時ニ作業ヲ爲スコトヲ必要トスル業務ニ十六歳以上ノ女子ヲシテ就業セシムルトキ

二、第一條第一項第四號ニ掲ケタル事業又ハ同條同項第五號ニ掲ケタル事業ニ十六歳以上ノ女子ヲ就業セシムルトキ

三、石炭鑛業又ハ亞炭鑛業ニ十六歳未満ノ男子ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムルトキ

前項第三號ノ場合ニ於テハ終業時ヨリ始業時迄ノ間ニ存スル間隔ハ十五時間

ヲ下ルコトヲ得ス但シ特殊ノ事情アル場合ニ於テハ十三時間迄之ヲ短縮スルコトヲ得

第十三條 工業主ハ一日ノ就業時間カ六時間ヲ超ユルトキハ少クトモ一時間ノ休憩時間ヲ就業時間ノ間ニ設クヘシ

作業ノ性質上前項ノ規定ニ依リ難キモノニ在リテハ行政官廳ノ許可ヲ得テ休憩時間ヲ設ケサルコトヲ得但シ十六歳未満ノ者及女子ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

從業者ヲ二組以上ニ分チ交替ニ午後十時ヨリ午前五時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルトキハ一週間ヲ超エサル期間毎ニ其ノ就業時ヲ轉換スヘシ

第十四條 工業主ハ從業者ニ對シ毎週少クトモ一回二十四時間繼續スル休日ヲ設クヘシ

第四條第一項第二號ニ掲ケタル業務ニ在リテハ三週間ヲ超エサル期間内ニ少クトモ三回ノ二十四時間繼續スル休日ヲ設クヘシ但シ内一回ハ同一年内ノ他ノ日ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第一條第一項第一號及第三號ニ掲ケタル事業ニシテ天候ノ關係上終日就業ヲ妨ケラレタルモノニ在リテハ其ノ就業ヲ妨ケラレタル日ヲ以テ其ノ日ヨリ四週間内ニ第一項ノ規定ニ依リ設ケラルヘキ休日ニ代フル事ヲ得

第十五條 第三條、第十三條及前條ノ規定ハ監督若ハ管理ノ地位ニ在ル者又ハ機密ノ事務ヲ處理スル者ニ之ヲ適用セス

第十六條 天災事變ノ爲又ハ事變ノ虞アル爲必要アル場合ニ於テハ主務大臣ハ事業ノ種類及地域ヲ限リ第三條、第九條乃至第十一條、第十三條及第十四條ノ規定ノ適用ヲ停止スルコトヲ得

避クヘカラサル事由ニ因リ臨時必要アル場合ニ於テハ工業主ハ三日間ヲ限リ第三條及第九條ノ規定ニ拘ラス就業時間ヲ延長シ第十一條ノ規定ニ拘ラス十六歳以上ノ女子ヲシテ就業セシメ又ハ第十四條ノ休日ニ従事者ヲシテ就業セシムルコトヲ得但シ其ノ必要アル期間三日ヲ超ユルトキハ行政官廳ノ許可ヲ受クヘシ

工業ノ平常ノ作業ニ對スル重大ナル障礙ヲ除去スル爲機械又ハ工場設備ニ付緊急

ノ處置ヲ施ス必要アル場合ニ於テハ工業主ハ第三條及第九條ノ規定ニ拘ラス就業時間ヲ延長スルコトヲ得

第十七條 本法ノ就業時間ニハ休憩時間ヲ含マサルモノトス  
就業時間ハ就業場所ヲ異ニスル場合ト雖モ之ヲ通算ス

第十八條 工業主ハ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ鑛物若クハ岩石ノ掘採若ハ掘鑿ヲ爲サシメ運轉中ノ機械若クハ動力傳導裝置ノ危険ナル部分ノ掃除、注油検査若ハ修繕ヲ爲サシメ危険ナル方法ニ依リ運轉中ノ機械若クハ動力傳導裝置ニ調帶調索ノ取附ケ若ハ取外シヲ爲サシメ又ハ車輛ノ連結若ハ分離ヲ爲サシメ其ノ他危険ナル業務ニ就カシムルコトヲ得ス

第十九條 工業主ハ十六歳未満ノ者ヲシテ毒藥、劇藥其ノ他有害料品又ハ爆發性發火性若ハ引火性ノ料品ヲ取扱フ業務及著シク塵埃粉末ヲ飛散シ又ハ有害瓦斯ヲ發散スル場所ニ於ケル業務其ノ他危険又ハ衛生上有害ナル場合ニ於ケル業務ニ就カシムルコトヲ得ス

第二十條 前二條ニ掲ケタル業務ノ範圍ハ主務大臣之ヲ定ム前條ノ規定ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ十六歳以上ノ女子ニ付之ヲ適用スルコトヲ得

第二十一條 工業主ハ六週間以内ニ出産スルコトアルヘキ旨ノ醫師ノ診断書ヲ提出シタル者及産後六週間ヲ經過セサル者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス

第二十二條 前條ノ規定ニ依リ休業スル女子ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ給與ヲ受クルモノトス

前項ノ給與ニ要スル費用及之ニ關スル費用ハ政府及工業主ノ負擔トス其ノ負擔ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十三條 女子自ラ其ノ生兒ヲ哺育スル場合ニ於テハ第十三條ノ休憩時間ノ外就業時間中ニ於テ哺育ノ爲一日ニ付各三十分二回ノ休憩ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 工業主ハ第二十一條ノ規定ニ依リ休業セル者又ハ妊娠若ハ出産ニ基ク疾病ノ爲就業ニ適セサルニ因リ休業セル者ヲ其ノ休業中解雇シ又ハ之ニ對シテ休業中ニ滿了スヘキ期間ニ附シタル解雇ノ通告ヲ爲スコトヲ得ス但シ出産又ハ流産

ノ日ヨリ六箇月ヲ經過シタルトキハ此ノ限りニ在ラス

第二十五條 主務大臣ハ病者ノ就業ニ付制限又ハ禁止ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第二十六條 行政官廳ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ工業ニ關シ危害ノ豫防生命若ハ健康ノ保護又ハ風紀ノ維持ノ爲必要ナル事項ヲ工業主ニ命シ必要ト認ムルトキハ就業場所及附屬建設物並設備ノ全部又ハ一部ノ使用ヲ停止スルコトヲ得

第二十七條 當該官吏ハ就業場所若ハ其ノ附屬建設物ニ臨檢シ又ハ疾病ノ疑アル從業者ノ檢診ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ證票ヲ携帯スヘシ

第二十八條 從業者自己ノ重大ナル過失ニ因ラスシテ業務上負傷シ疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ工業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本人又ハ其ノ遺族ヲ扶助スヘシ

第二十九條 從業者、從業者タラムトスル者若ハ工業主又ハ其ノ法定代理人若ハ工業管理人ハ從業者又ハ從業者タラムトスル者ノ戸籍ニ關シ戸籍事務ヲ管掌スル吏員又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

第三十條 從業者ノ賃金ハ勅令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外通貨ヲ以テ毎月一回以

上之ヲ支拂フヘシ

第三十一條 工業主ハ從業者ヲ解雇シタル場合ニ於テハ其ノ請求ニ因リ雇備ノ期間業務ノ種類、技能、賃金及解雇ノ事由ヲ記載シタル證明書ヲ與フヘシ

第三十二條 從業者ノ雇入、解雇、周旋ノ取締及徒弟ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條 工業主ハ工業ニ付一切ノ權限ヲ有スル工業管理人ヲ選任スルコトヲ得工業主自ラ工業ヲ管理セサルトキハ工業管理人ヲ選任スヘシ

工業管理人ノ選任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ但シ法人ノ理事、會社ノ業務ヲ執行スル社員、會社ヲ代表スル社員、取締役、業務擔當社員其ノ他法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者及支配人ノ中ヨリ選任スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十四條 前條ノ工業管理人ハ本法及本法ニ基キテ發スルノ命令ノ適用ニ付テハ工業主ニ代ルモノトス但シ第二十二條及第二十八條ノ規定ニ付テハ此ノ限ニアラス

工業主營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セサル未成年者若クハ禁治産者ナル場合又ハ法人ナル場合ニ於テ工業管理人ナキトキニ其ノ法定代理人又ハ理事、業務ヲ執行スル社員、會社ヲ代表スル社員、取締役、業務擔當社員其ノ他法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ付亦前項ニ同シ

第三十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一、第二條乃至第五條、第九條乃至第十一條、第十二條第二項第十三條、第十四條、第十八條、第十九條、第二十四條、第三十條又ハ第四十條ノ規定ニ違反シタル者

二、第六條ノ規定ニ基キ行政官廳ノ許可ヲ得タル協定ノ制限ヲ超エテ從業者ヲシテ就業セシメタル者

三、第二十一條ノ規定ニ違反シ妊婦若ハ産婦ヲシテ就業セシメタル者、第二十三條ノ規定ニ依ル哺育ノ爲メ休憩ヲ爲サシメサル者又ハ第二十五條ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違反シ病者ヲシテ就業セシメタル者

四、第二十六條ノ規定ニ依ル處分ニ從ハサル者

第三十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一、第三十一條又ハ第三十三條第二項ノ規定ニ違反シタル者

二、正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢若ハ檢診ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨ケ又ハ其ノ訊

問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者

第三十七條 工業主又ハ第三十四條ノ規定ニ依リ工業主ニ代ル者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違背スル所爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ル、コトヲ得ス但シ工業ノ管理ニ付相當ノ注意ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニアラス工業主又ハ第三十四條ノ規定ニ依リ工業主ニ代ル者ハ從業者ノ年齢ヲ知ラサルノ故ヲ以テ本法ノ處罰ヲ免ル、コトヲ得ス但シ工業主又ハ第三十四條ノ規定ニ依リ工業主ニ代ル者及取扱者ニ過失ナカリシ場合ハ此ノ限ニアラス

第三十八條 本法ニ依ル行政官廳ノ處分ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起シ違法ニ權利ヲ

傷害セラレタリトスル時ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三十九條 第三條、第十三條、第十四條及第二十八條ノ規定ハ左ニ掲クル事業ニ之ヲ適用セス但シ事業ノ性質危險ナルモノ又ハ衛生上有害ノ虞アルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

一、第一條第一項第二號ニ掲ケタル事業ニシテ常時十人未滿ノ職工ヲ使用スルモ

二、第一條第一項第三號ニ掲ケタル事項ニシテ命令ヲ以テ定ムル者

三、道路海路又ハ内地水路ニ依ル運送

四、第一條第一項第五號ニ掲ケタル事業

前項但書ノ事業ノ種類ハ主務大臣之ヲ指定ス

第四十條 前條第一項ニ掲ケタル事業ニ在リテハ工業主ハ一日ニ付十六歳未滿ノ者ヲシテ九時間女子ヲシテ十一時間ヲ超エテ就業セシムルコトヲ得ス此ノ場合ニ於テハ始業ヨリ終業迄ノ時間ハ休憩時間ヲ合算シテ就業時間ヨリ二時間ヲ超ユルコ

トヲ得ス

第十三條ノ規定ハ前項ノ従業者ニ之ヲ適用ス

前二項ノ規定ハ監督若ハ管理ノ地位ニ在ル者又ハ機密ノ事務ヲ處理スル者ニ之ヲ適用セス

第四十一條 本法ハ工業主ト同一ノ家ニ在ル者ノミヲシテ就業セシムル場合ニ於テハ之ヲ適用セス

第四十二條 第二十一條乃至第二十四條第二十七條及第三十三條乃至第三十七條ノ規定ハ商業ニ之ヲ準用ス

第四十三條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令中工業管理人ニ關スル規定及罰則ハ國、道府縣、郡、市町村其ノ他之ニ準スヘキモノ、事業ニ之ヲ適用セス

第四十四條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リテ行政官廳ニ屬スル職務ハ各事業ノ所轄官廳之レヲ行フ但シ國ノ事業ニ關シテハ其ノ事業ヲ行フ官廳ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

附 則

第四十五條 本法ハ大正十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第四條第一項第二號後段ノ規定ハ大正十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四十六條 第二條ノ規定ハ本法施行ノ際十二歳以上ノ者ヲ引續キ就業セシムル場合ニハ之ヲ適用セス

第四十七條 本法中十六歳トアルハ本法施行後三年間ハ之ヲ十五歳トス

第四十八條 工場法ハ之ヲ廢止ス

第四十九條 鑛業法第七十一條第二號第五章第百條並第九十八條中「第七十六條又ハ第七十八條」及第九十九條中「又ハ七十五條ノ規定ニ違反シタル者」ヲ削リ第

九十七條ヲ左ノ如ク改ム

第九十七條第四十四條若ハ第四十五條第二項ノ規定ニ違背シタル者又ハ第四十五條第一項若ハ第七十三條第一項ノ命令ニ從ハサル者ハ百五十圓以下ノ罰金ニ處ス



此書之發行... 爲日本... 社會... 進步... 之... 功... 勞... 也... 凡... 我... 國... 之... 民... 衆... 幸... 勿... 失... 此... 良... 機... 也... 大... 正... 十... 一... 年... 七... 月... 廿... 日... 發... 行... 價... 金... 壹... 圓... 八... 拾... 錢... 新... 潟... 市... 西... 堀... 通... 五... 番... 町... 永... 田... 正... 之... 助... 著... 濫... 谷... 末... 吉... 印... 刷... 所... 新... 潟... 市... 東... 堀... 前... 通... 十... 一... 番... 町... 新... 潟... 市... 西... 堀... 前... 通... 七... 番... 町... 發... 行... 所... 新... 潟... 新... 聞... 社... 株... 式... 會... 社...

大正十一年七月十日印刷  
大正十一年七月廿日發行

(定價金壹圓八拾錢)

著者兼發行者 永田正之助

印刷者 濫谷末吉

印刷所 新潟新聞社

發行所 新潟新聞社

502  
123

終